

<h1>片瀬のぞみだより</h1>	<p>宗教法人日本基督教団片瀬教会付属</p> <p><b>片瀬のぞみ幼稚園</b></p> <p>2019年5月号</p> <p>家庭通信 2019 No.6</p>
-------------------	--

## 5月主題聖句

初めに、神は天地を創造された（創世記1章1節）旧約 p 1

天の下にあるすべてのものはわたしのものだ（ヨブ記41章3節）旧約 p 831

かつて私が横浜で、教会の牧師として付属幼稚園の園長をしていた時に、教会学校に通う小学生・中学生に対して「神様ってどんな方」というテーマで、アンケート調査をしたことがありました。その集計をまとめてみましたところ、次のような答がありました。

小学生では“いつもみんなを守ってくれるやさしい方” “だれでも愛する親切な方” “目には見えない方” “髪とひげが長くて白く、白い服を着た方” “頭がいいけれどお金がない方” その他

中学生 “こわいようでやさしい方” “何でも話を聞いてくれる方” “何でもよく見て知っている方” “お祈りをしたくなるような方” “苦しい時にお祈りを聞いてくださる方” “イエス様をこの世に遣わされた方” “天地のすべてを創られた方” その他

このアンケートの答えを見ますと、多くの子どもたちが、幼稚園から教会学校の主日礼拝や分級活動で、聖書のみ言葉やお話を聞きながら神様について子どもたちなりに理解し受け止め、心の成長振りを見ることができます。

旧約聖書の第1頁を開きますと「初めに、神は天地を創造された」と記述されています。そして、その後には万物の一つ一つを創造されたと繰り返し記述されています。現代に生きる私たちは、この聖書の言葉を文字通り解釈して理解することができるのでしょうか。

創世記1章から2章に記述されている「天地創造物語」神は6日間で、この順序で造られたと信じ受け取ることは出来ません。誰も宇宙生成や動植物誕生の過程を目撃して書いたものではないからです。しかし、この「天地創造物語」を近代科学の進化論を盾にとって、非難し切り捨ててしまうのも間違いです。進化論は、科学というよりひとつの仮説、一度も実験によって確認されたことのない仮説です。それによって人間や動植物の起源や成育状況をうまく説明することができるのですが、科学的に絶対的な真理というわけにはいきません。聖書は自然科学、その他の学問が発達していなかった時代の人々が、当時

(古いものは 3000 年以上前) の宇宙観、世界観を用いて、神と世界、そして人間との関係を明らかに示そうとしたものですから、そこに現代の科学的な真理を求めようとしても、それは筋違いというものでしょう。

それでは、自然科学はやがて世界の、或いは宇宙の始まりの謎を解き明かすのでしょうか。今日の科学の探求は凄まじいもので、世界、宇宙の始まりを 200 億年ほど辿ることができると言われていますが、まだまだ奥が深く未知のもので、最後にはどのような結論がでるのでしょうか。

先程も触れましたが、旧約聖書 創世記の冒頭に「初めに、神は天地を創造された」とあり、万物の創造の初めに「神は言われた」とあります。この言葉は神の意志の表れであり、神が創造されたものの目的と意味を表しているのです。ですから、すべて造られて存在する自然も、人間も、動植物もその背後には、神の意志と力が注がれているのです。

つまり、この世に存在するものは、何一つ偶然によるものではなく、創造主なる神によるものであるという、神への信仰を告白している記述というべきものなのです。

今月の聖書の言葉「天の下にあるすべてのものはわたしのものだ」(ヨブ記 41 章 3 節) も創造信仰と深く関わりをもつ言葉です。

旧約聖書ヨブ記には、信仰者ヨブのことが記されています。彼は敬虔な信仰深い人物で、家庭にも、地上の富にも恵まれて豊かな生活をしていました。しかし、或る時を境にして彼の生涯に相継いで試練が訪れてきます。先ず彼の財産が強盗に襲われて奪われ、次に 10 人の子どもたちが天災によって圧死するという悲惨な出来事が連続して起こります。ヨブの苦難はそれだけに終わらず、更に自分の体全身に腫物が出来、最後に妻によって「神を呪って死になさい」と宣告されて見捨てられたのです。彼は「正しい者が何故苦しむのか」と苦闘しながら神の答えをひたすら待ち望んだのです。しかるに、苦しみの理由は答えられませんでした。「天の下にあるすべてのものはわたしのものだ」という神の言葉によって、自らの傲慢の罪を悔い改めた時に、これまで以上の繁栄が回復されています。

この世界、地の上には多くの人々が生かされています。苦しむ者、貧しい者、痛む者、迫害されている者もいます。人間だけでなく多くの他の動物、植物も共に住んでいます。すべてのものは神によって創造された、共に生きる仲間です。ですから、人間の誰かがこの地の主人になって、自分勝手に地やその中に生きる者の生命を傷つけ、破壊し、奪い取ったりしてはならないのです。

「地とそこに満ちるもの、世界とそこに住むものは、主のもの」(詩編 24 篇 1 節)

この世界は誰のものなのか、神によって創造されたこの世界は、他にかげがえのない唯一の世界であるとの創造信仰こそが、子どもたちにとって来たるべき平和な新しい世界を生み出すための希望の力となることを信じて祈ります。